



校友会会報

今後の校友会活動について

酪農学園大学同窓会校友会 会長 野村 武

はじめに、我が同窓会校友会は会則に「本会は会員相互の親睦交流と酪農学園大学の建学の精神を広く社会に啓蒙し、かつ自らの実践を図り、併せて母校の栄光発展に寄与することを目的する」と記されています。

校友会の現況は2012年6月現在で酪農学部酪農学科、同農業経済学科、同食品科学科、同食品流通学科、獣医学部獣医学科、環境システム学部経営環境学科・環境マネジメント学科、同地域環境学科、同生命環境学科の8つの学科同窓会により構成されており、卒業生数は大学25,917名、大学院1,440名で合計27,357名であります。

大学は2011年度より大学改革に伴い2学群5学類11コースの再編を行いました。校友会として2014年度より上記学群の1期卒業生を迎える事になります。それに伴い、今後「校友会の活動および組織をいかにしていくべきか」という在るべき姿を検討すべく、2011年度同窓会校友会理事会・代議員会において「検討委員会を立ち上げて、校友会の一元化の方向性を持って具体案を検討する事」が決議されました。

その後、基本運営立案（横山明光委員長）、会費等に関する（小山久一委員長）、会則に関する（末田洋一委員長）の各検討委員会を設置し2014年度以降、現在の学科同窓会主体の運営形態から一元化して校友会一本で運営していく方向性で精力的に検討がなされています。

検討の主な課題として一元化した校友会の基本となる活動方針と組織再編について、各同窓会活動の継承について、会費徴収の変更について①会費を値上げし、終身会費3万円②在校生の準会員制度を新設し、同窓会活動を理解していただく為に在校生の活動を支援する、とします。

全国的な活動は同窓会連合会（本会の上部同窓会である）が行っており12地区同窓会（北海道5地区、東北地区、関東甲信越地区、中部地区、近畿地区、中国地区、四国地区、九州地区）に分類しその中で50前後の支部が現在活動しており学園創立80周年を迎える今、大きな組織となっております。

しかし、活動が休眠している支部、未設置支部が20支部以上もあるのが現状であります。

創業者黒澤西蔵先生の「建学の精神」を実践している同窓生の絆により全国を網羅した同窓会ネットワークの形成が必要であり、我が同窓生が中心となりその活動を支援する体制の構築が急務であります。

まず2012年度事業においては同窓会連合会の地区支部活動充実のため、地区支部総会に掛る連絡通信費を助成しております。

学園創立80周年事業への支援について2013年には、1933年に北海道酪農義塾設立以来80年目を迎えるあたり酪農学園、酪農学園後援会が記念事業の検討を行っており我が同窓会に協力要請がなされております。

この期を捉え多くの同窓生から母校に訪問した時に気軽に立ち寄り広げる場、創生期の酪農学園資料の整備、展示などの同窓会館の改修など理事会で検討し酪農学園と共に計画して行きたいと思っております。同窓生のご意見、ご支援をよろしくお願いいたします。

おわりに、同窓生皆様方のご健勝と我が校友会が同窓生の更なる絆の基に、酪農学園の発展に寄与できる真のパートナーになるようにと願っております。



校友会の現状

校友会事務局長 竹花 一成

会員の皆様におかれましては、変わらずご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年の本紙面で私の役目は「各同窓会の校友会への一本化」をより具体的に進める事と記載しました。現在2011年度理事会・代議員会での決定を受け、各学科同窓会組織をより有効的にまとめ上げ、校友会が酪農学園同窓会連合会の中核としてその立場と形を築き上げる方向で進んでおります。

今年度当初から「校友会組織の一元化に伴う」3委員会（基

本運営立案検討委員会、会費等に関する検討委員会、会則に関する検討委員会）を立ち上げ、多くの役員の協力の下、次回総会では理事会案を提示すべく、精力的に話し合いが進められております。

また、今年度の学園主催のホームカミングデーは、会員相互の懇親の場を持つべく昼食時にバーベキューの実施を提案致しました。企画、実施等、会長以下多くの皆さまの協力、そして参加を頂き、充実した中に和気あいあいとした時を共有する事が出来ました。誠にありがとうございました。

校友会の設立概念を忘れることなく、一層酪農学園が発展する為、校友会をより熟成させる様に努力をいたしますので、会員の皆様のご支援を何卒よろしくお願いいたします。

各学科同窓会の一年

酪農学科 「同窓会の一元化を意識した役割活動」

酪農学科同窓会副会長 横山 明光

酪農学園大学に同窓会が出来て、48年経ちました。

最初は酪農学科の卒業生しかおられなかったので、当然酪農学園大学（酪農学科）同窓会でしたが、その後農業経済学科、更に獣医学科からの卒業生が社会に排出されるにしたがい、学科ごとに同窓会が建ちあがってきました。酪農学科の同窓会はそれぞれ、新しい学科の同窓会が建ちあがる度に、それを助け、連携を持ち各学科同窓会の活動を支援してまいりましたが、それぞれの組織が活発化される中で、1989年に酪農学園大学校友会が発足いたしました。

さて、そのような中でいろいろな功罪も目立ち、大学同窓会として一本化すべきでないかという意見も20年ほど前から上がってはおりましたが、この度、大学の教育システム（学群・学類・コース）に改組されたことを機会に、大学・短大同窓会の一元化を進めることになり、それに向け率先して働く役割を担う責任を意識した活動となりました。将来を見据えた酪農学科同窓会の総会、役員会、学科同窓生としての学内行事参加、廃科となった短大も包含した同窓会として連絡・調整活動を今年度・来年度と行ってまいります。



農業経済学科「活動報告」

農業経済学科同窓会事務局長 加藤 浩

農経同窓生の皆さんこんにちは。農業経済学科同窓会の2011年度の活動をご報告いたします。基本的に例年同様の活動を行いました。スポーツ大会への協賛、会報の発行、卒業記念祝賀会の開催、現地研究会の開催などです。2011年度は現地研究会を酪農学園東京オフィスで開催し、好評だったので2012年度も同じ東京で実施しました。農業経済学科としての卒業生も2013年3月と2014年3月のあと2回で終わることになります。今後は循環農学類の同窓生が新しく生まれていきます。しかし農業経済学科のOBはまだ同窓会の主役であります。農経同窓会としては今後もOB主催の同窓会などに微力ながらご支援をさせていただき所存であります。昨年もOB主催の同窓会が札幌で開催されました。ここ数年は連続して開催されています。同窓会を開きたい方はご一報下さい。

現在、農経同窓会独自のホームページがシステム変更に伴い休止状態です。もうしばらくお待ち下さる様、お願いいたします。



食品科学科「活動報告」

食品科学科同窓会事務局長 上野 敬司

食品科学科同窓会の2011年度の活動は例年同様、同窓生の住所録管理、卒業生に対して卒業記念パーティー開催への補助ならびに学位記のホルダーの贈呈を行い、また同窓生名簿の現住所確認を実施いたしました。2012年度も例年同様の活動を進めております。現在、同窓生間の交流促進、学科同窓会からの連絡等を目的として同窓生会員用ホームページ制作の準備を進めております。この詳細につきましては準備が整い次第、ダイレクトメールにて連絡させていただき予定をしております。住所変更等などございましたらご連絡いただきたく思います。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



食品流通学科「同窓会活動報告」

食品流通学科同窓会事務局長 西田 智

食品流通学科同窓会の2011年度の活動としましては、2012年3月に卒業生（第15期生）への卒業パーティー支援という形でお手伝いさせて頂きました。

2011年度は66名の卒業生が巣立つこととなり、卒業生への記念品としてペーパーウェイトと学位記ホルダーを贈呈し、3月21日にシェラトンホテル札幌で行われた卒業パーティーにて、学生の会費の補助やビンゴゲームでの景品の補助を行いました。

ちなみに1994年に食品流通学科の第1期生が入学して、卒業した同窓生も1,100名を超過になりました。2011年度から大学組織の変革により、同窓会組織も変革の準備を進めております。今後とも食品流通学科の同窓会活動に、ご理解・ご協力頂けますようお願い申し上げます。



■獣医学科 「大学同窓会校友会の一元化と獣医学科同窓会」

獣医学科同窓会事務局長 菊池 直哉

2014年度に新しい学群学類が初めて卒業生を送り出します。それに伴い、大学同窓会校友会では、校友会組織の一元化を執り進めております。これまでは各学科独自に活動してきました。獣医学科同窓会は、独自で会費を徴収しながらこれまで三愛編集を中心に様々な活動をして参りました。しかし、この校友会一元化により獣医学科同窓会も変化せざるを得ません。現在、獣医学科同窓会では特別委員会を設置し、同窓会一元化に向けての獣医学科同窓会の基本的対応について協議し模索している状況です。

3月30日、獣医学科同窓会顧問の牛島純一先生(写真上)が特別三愛賞を受賞されました。授賞式は米寿のお祝いも兼ねて横浜で行われ、多くの卒業生に囲まれ楽しそうにご歓談されておりました。続いて9月26日、河田啓一郎先生(写真下)が特別三愛賞を受賞されました。先生には毎年代議員会に出席していただき、貴重なご意見をいただいております。第7回三愛賞「同窓生の部」の授賞式も行われ、唐仁原景昭氏(2期卒・千葉支部)が受賞しました。唐仁原氏は自ら全国に赴き、わが国の狂犬病の流行と防疫の歴史について研究し、本症の実態を掘り起こすとともに今後の防疫体制について重要な示唆を与えました。

全国各地で支部同総会、そして同期会、研究室の同窓会など、様々な同窓会開催に際して、獣医学科同窓会では助成金を交付しております。その際開催報告書と写真をいただき、大学同窓会校友会のホームページに掲載しております。

皆様、是非ホームページを閲覧ください。様々な情報が掲載されております。

今後とも同窓会活動にご理解とご協力をお願いいたします。



■生命環境学科「環境教育」

生命環境学科同窓会事務局長 齊藤真里恵

東日本大震災の復興が進む中、普段の生活の仕方を再度考え直す1年であったと思います。特に節電や節水などそれぞれが自分の問題として取り組むことで変わっていきけることもある、と感じました。被災地の1日も早い復興をお祈りいたします。

社会人2年目として札幌市の環境教育に携わるなかで、今後も環境問題と自分たちの生活とのつながりについていろいろな角度から考えるきっかけを創っていきたいと感じています。生命環境学科で体験したことを活かし、「環境のお医者さん」として未熟ではありますが社会へ貢献していきたいと思っております。

大学は新体制となり生命環境学科の同窓生は少なくなりますが、今後とも生命環境学科同窓会の活動にご理解とご指導をどうぞ宜しくお願い申し上げます。



■経営環境学科・環境マネジメント学科 「最後のゼミ配属完了！」

環境マネジメント学科教授 高取 則彦

昨年4月に3年生のゼミ配属を行いました。ご存知のように、この3年生が環境マネジメント学科最後の学生となります。

昨年の会報に篠崎先生がお書きのように、先生と私は、ゼミ配属に20年くらい関わってきました。学生の希望調査票にもとづき、なるべく希望の順位が上のゼミに配属するよう、毎年頭を悩ませました。多いときは150人以上の学生がいましたから、今振り返ってみると、よく配分できたものだとし感心しています。

しかし、学生の皆さんから見ると、希望どおりとは言えないこともあったでしょう。それでも、文句を言わず黙って従ってくれました。皆さんの“大人”の対応には感謝しています。

たいへん寂しいことに、設立のときから今まで学科を支えて来られた先生の多くは、そう遠くないうちに“卒業”されます。卒業生の皆さん、久しぶりに大学にいらして、懐かしい先生方にお会いになってはいかがでしょうか。



■地域環境学科「今こそ、環境保全の心を！」

地域環境学科教授 岩井 洋

ジャン・ジオノの「木を植えた男」の心が今でも求められます。フランス・プロバンス地方の荒涼とした村に、羊飼いの老人が住んでいる。老人は羊の群れを見守るかたわら、どんぐりの実を土に埋め続ける。老人が埋めたどんぐりからやがて芽が出て成長し、しっかりとした成木になる。人々が老人の事など忘れた頃には、その地が豊かな森にすっかり変わっている。今や森は、木々の濃い緑、湧き出る清らかな水、さわやかな空気、健康的な食物を生み出す。かつてとげとげしかった村人たちの心が今や大らかになり、人々の顔に笑顔が絶えない。森が人々に、豊かで快適な環境と豊かな生活を生み出してくれたのである。その豊かな森を創った礎こそが、羊飼いのプフィエ老人だった。



地域環境学科は、そうした健全で豊かな地域環境作りに貢献する「木を植える人」の心を持つ人を、数多く社会に送り出すことに、学科の目標を置いています。以上のこと、再確認をお願い申し上げます。

追伸：卒業生の皆さん、皆さんのの上になにか嬉しいことがあったりまた悲しいことがあったり、あるいはたとえ何もなかったとしても、久しぶりにわれわれの所に寄ってください。皆さんの懐かしい再訪を、心からお待ちしています。

2012年度ホームカミングデー報告

9月15日(土)天候にも恵まれ、遠方からの卒業生を含む約130人が参加して第21回ホームカミングデーが開催されました。今年度は初めての試みとして酪農学園大学関連の食材による野外バーベキューランチを行い、懐かしい恩師や友人らとの交流を楽しみました。ランチには本学元野幌農場で肥育された日本短角種や学内栽培のジャガイモ、健土健民牛乳などたくさんの食材が並びました。

その後、黒澤記念講堂で記念礼拝(物故者追悼)、記念講演が開催され、記念礼拝の司式は藤井創宗教主任によって行われました。奨励では藤井宗教主任が、東日本大震災復興支援のため岩手県でボランティア活動をした本学大学院生関口明希さんと陸前高田市の肉牛農家小沢惣一さんと

のエピソードを通して「共に泣き、共に喜ぶ」聖書の教えを語り、礼拝の最後に全員で「酪農讃歌」を合唱しました。記念講演では麻田信二理事長より学園を取り巻く状況報告と講師への謝意の挨拶が述べられました。工藤英一名誉教授の進行により、日本農業賞受賞の長野県永井牧場永井進氏と北海道興部町ノースブレインファーム大黒宏氏を講師として迎え「生産者と消費者を結び心をつなぐ経営とその信念」一酪農学園の精神を現代に生かすをテーマにそれぞれの経営状況や今後の抱負、現在に至るまでの経過などを語っていただきました。両講師の経営において、本学の建学の精神がバックボーンとなっていることが強く感じられた講演内容でした。



第22回 ホームカミングデー開催予定

酪農学園大学収穫祭と同日に開催予定とし、礼拝・記念講演のほか、昨年同様酪農学園大学関連食材によるバーベキューランチを実施する予定です。ぜひ懐かしい恩師や友人らとの交流に加え、在学生との交流、大学収穫祭を楽しんでいただきたいと思います。

詳細は決定次第ホームページに掲載いたしますので、多くの方々の参加をお待ちしております。

物故者 2011年4月から2012年3月

ここに謹んでご冥福をお祈り致します。

八木啓充(酪農・10期)	卯城正志(農経・12期)
川西忠雄(農経・4期)	小鹿隆雄(農経・8期)
齋藤 隆(農経・46期)	庄野俊明(農経・4期)
田中英雄(農経・26期)	渥美 仁(獣医・16期)
大矢保子(獣医・18期)	神崎登史(獣医・37期)
小森泰治(獣医・7期)	榊原政昭(獣医・1期)
高野 茂(獣医・6期)	古橋治己(獣医・4期)
水上公明(獣医・9期)	敬称省略

2012年度酪農学園大学同窓会校友会理事・代議員会報告

5月25日(木)新さっぽろアーキシティホテルにて2012年度同窓会校友会理事・代議員会が開催された。理事12名、代議員10名、監事1名の23名が出席した。議長は会則により野村会長が行った。第1号議案:2011年度事業報告、収支決算、監査結果について報告され承認された。第2号議案:2012年度事業計画・収支予算(案)が提案され承認された。第3号議案:会則改訂では1)準会員制度(在校生)の設置について、2)会費改定および徴収時期の変更について提案され承認された。また基本理解を深めるため、校友会一元化についての経過説明が行われた。

会計報告 2011年度予算、決算及び2012年度予算について下記の通り承された

収 入				
項 目	2012年度予算	2011年度決算	2011年度予算	備 考
前年度繰越金	8,100,030	9,391,803	9,391,803	
分 担 金	0	2,175,000	2,160,000	725名×3,000円(大学院生2名)
同 窓 会 費	10,080,000	0	0	672名×15,000円
利 息	10,000	3,405	10,000	
助 成 金	50,000	10,000	10,000	
ホームカミングデー共催金	400,000	300,000	260,000	学園・関係団体より
雑 収 入	40,000	34,000	40,000	理事・代議員会懇親会費
合 計	18,680,030	11,914,208	11,871,803	
支 出				
項 目	2012年度予算	2011年度決算	2011年度予算	備 考
学科事業費				
会 報 費	2,204,000	0	0	各学科予算書による
会 議 費	360,000	0	0	
卒業式記念品費	1,109,933	0	0	
卒業パーティー関係費	2,209,000	0	0	
活 動 費	610,000	0	0	
事 務 費	260,000	0	0	
雑 費	430,500	0	0	
支部活動費	1,512,000	0	0	支部への通信費助成
校友会運営費				
会 議 費	150,000	204,248	100,000	理事・代議員会他
連合同窓会	640,200	640,200	640,200	負担金
在学生関係	100,000	100,000	100,000	白樺祭支援
会 報 関 係	250,000	225,500	250,000	印刷代
ホームカミングデー費	500,000	357,024	380,000	校友会負担分77,124円
シリーズ小冊子	200,000	131,244	100,000	印刷費、郵送料他
コンピューター費	100,000	49,875	200,000	ホームページ更新他
人 件 費	1,200,000	1,172,996	1,200,000	事務局長手当含
通 信 費	50,000	40,082	30,000	
旅費交通費	60,000	69,480	40,000	会計監査、理事・代議員会交通費他
慶 弔 費	50,000	30,870	30,000	3件
事務用品費	80,000	296,891	250,000	書架代132,000円、コピートナー代他
消 耗 品 費	30,000	70,066	30,000	マツトリース代他
卒業記念品	400,000	0	0	酪農讃歌CD代300,000円、酪農ジャーナル印刷代65,047円他
雑 費	30,000	425,702	30,000	振込手数料他
小 計	12,535,633	3,814,178	3,380,200	
次年度繰越金	6,144,397	8,100,030	8,491,603	
合 計	18,680,030	11,914,208	11,871,803	